

難聴通級指導学級 (きこえの教室)※

言語障害通級指導学級 (ことばの教室)※

知的な遅れはないものの、聞こえにくさやことばの悩みがあるために学級活動や学習、友だちとの関係で実力を発揮しきれない子どもたちのための通級学級です。なお、発達の遅れや行動面の課題が大きい場合や、在籍学級への欠席が多いなどの場合には対象にならないことがあります。

※(きこえの教室)(ことばの教室)とは、「難聴通級指導学級」「言語障害通級指導学級」の愛称

学校生活や日常でこのようなことはありませんか？

聞こえにくさがある

両方または片方の耳に聞こえにくさがあるために、聞き逃しが多かったり、話しかけられても気づかなかったりする。



指導の一例

- 聞こえにくさを確認し、補聴器などを効果的に活用する力を付ける。
- 聞こえにくさを補うために、ことばを増やし、読解力を高める。
- わからないことを、確かめようとする気持ちを育てる。
- 家庭や学校で、聞きとりやすい環境をつくってもらおう。 など

発音できない音がある

「さかな」が「タかな」になる、「ごはん」が「オアん」になる、「シ」 「チ」など特定の音がうまく発音できない、発音がはっきりしない等の悩みがある。



指導の一例

- 口や舌を動かす力を高める練習をする。
- 発音するときの舌の位置や息の出し方を学ぶ。
- 文字を見ながら、正しい音を聞き分ける力を育てる。 など

ことばがつまって出にくい

「かかか……からす」というように、話し始めの音を繰り返したり、「かーらす」と最初の音が伸びたり、ことばが出るまでに少し時間がかかる。



指導の一例

- のびのびと話したり、表現したりする経験を積む。
- 楽な話し方の練習をする。
- 家庭や学校で話しやすい環境をつくってもらおう。 など

ことばの理解や表現が苦手

言葉の数が少なく、言われていることばの意味がよくわからず、うまく気持ちや考えが伝えられない。



指導の一例

- 人とやりとりする楽しさを知り、伝えあう気持ちを育てる。
- ことばを増やし、話したり表現したりする力を育てる。
- 聞く力や、聞いて考える力を育てる。
- 文字や文を読んだり書いたりする力を育てる。 など

特別支援教室の目的は、お子さんの学習や生活上の困りごとを改善し、できるだけ多くの時間、在籍学級で他の子どもたちと共に、有意義な学校生活を過ごせるようになることです。

特別支援教室のしくみ

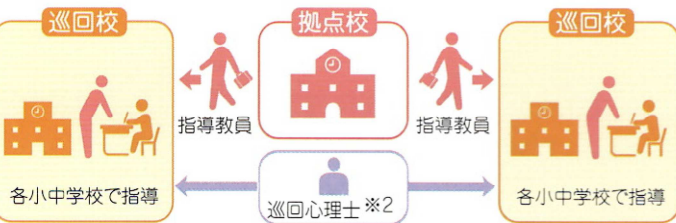
区内小中学校全校に設置しています

特別支援教室は、各学校の中に設置しています。拠点校から巡回指導教員が訪問し、決められた時間に特別支援教室での授業を行います。

特別支援教室拠点校と巡回校

特別支援教室の実施にあたっては、巡回エリア^{※1}を編成し、巡回指導教員がエリア内の学校を巡回して、指導を行います。

■特別支援教室のしくみ



※1 小学校・中学校の巡回エリアについては、裏表紙に記載しています。

※2 「巡回心理士」は、月1回程度各校を訪問します。

入室の時期

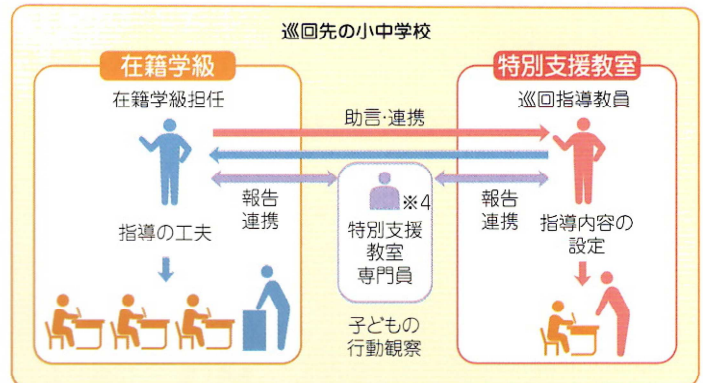
・毎年度4月または9月となります。

・事前に入室に関する判定委員会があります。詳しくはP6をご覧ください。

巡回指導教員は在籍学級を参観します

巡回指導教員は、在籍学級の担任の先生と連携しながら指導^{※3}を進めます。また、在籍学級での子どもの様子も観察し、担任の先生に助言することもあります。

■特別支援教室における指導・支援の体制



※3 教科の予習・補習や、在籍学級での学習の遅れを取り戻すための指導を行うものではありません。

※4 「特別支援教室専門員」(各校に配置)は、特別支援教室の運営に関する連絡調整を行います。

指導期間の考え方

原則の指導期間は1年間です

進級や学校生活のサイクルが年度単位であることから、原則の指導期間を1年間としています。これを踏まえ、学校生活を送るうえで为中心的な課題や困りごとの克服に向けて計画的に指導し、1年間のサイクルが終了する時点で必ず振返りを行います。

※年度途中から利用の場合は、翌年度未までが原則の指導期間となります。

指導期間の延長

指導期間の終了後、必要な場合は指導を1年間延長し、延長終了後には改めて支援策を検討し、お子さんの状況に応じた適切な支援を行っています。

※年度途中から利用の場合は、指導期間の延長はできません。

特別支援教室での指導・支援

困りごとに応じた指導をします

特別支援教室での授業は、週1回程度、1日1～2時間を基本とし、一人ひとりのニーズに合わせて、指導内容や方法、時間などを、保護者や在籍校と相談して決定します。個別指導と小集団指導を必要に応じて組み合わせていきます。

個別指導

一人ひとりの特性や課題に応じて工夫された教材を使って学習する時間を作ります。「わかった」「勉強はおもしろい」と思える体験を積み重ね、自信と意欲を育てていきます。苦手なことや、得意なことを通して、自己理解を進めます。

小集団指導

数人のグループで体を動かしたり、ゲームをしたりする中で、コミュニケーション力やルールを理解する力を育てていきます。

●コミュニケーションの学習

自分も相手も気持ちよく過ごすために、「上手な言葉でのやりとり」や「相手の気持ちを考える」学習をします。

●運動

「感覚統合」の視点で体を動かす練習などをしていきます。ゲーム的活動を通して、「ルールを守る」「勝ち負けを受け入れる」などの経験も積み重ねていきます。

